

令和2年産多収性品種実証試験結果について

JA全農にいがたでは、本県に適した多収性水稻品種の選定、ならびに多収技術の確立・普及を目的に実証試験を取り組みました。

1. 実証圃の設置か所

15JA、16か所、5品種

2. 品種別の結果

本年は、田植え後の高温多照条件により茎数を十分に確保できました。極早生・早生品種は7月の日照不足を受けた半面、8月下旬から9月上旬のフェーンの影響が少なく、品質は良好でした。

- (1) ちほみのりは、7月中旬に出穂し、日照不足の影響を受け登熟不良により低収となりましたが、カメムシ類による斑点米発生は少なく抑えました。
- (2) ゆきん子舞は、出穂が早まったことと、基肥量の少ない圃場で収量はやや伸びませんでした。品質は良好でした。
- (3) つきあかりは、倒伏が多かった圃場がありましたが、630kg/10a以上の多収になりました。
- (4) ゆみあずさ（早生品種）は、早刈りで青未熟粒が多く2等となりましたが、カメムシ類による斑点米は少なく、収量は670kg/10aと多収でした。
- (5) にじのきらめき（中生品種）は、一部2等となりましたが、700kg/10a以上の圃場もあり、作りやすく、収量は安定していました。



「つきあかり」（糸魚川市 6/24）



「ちほみのり」幼穂形成期（三条市 6/22）

【品種別実証成績（平均）】

品 種	圃場数	施肥窒素 (kg/10a)	実収量 (kg/10a)	基準単収 (kg/10a)	差 (kg/10a)	等級
ちほみのり	2	11.8~12.6	473	551	-79	1等 100%
ゆきん子舞	4	9.8~12.0	556	551	+5	1等 83%
つきあかり	5	11.4~16.5	640	522	+118	1等 46%
ゆみあずさ	1	15.0	670	547	+123	1等 0%
にじのきらめき	4	9.0~13.4	666	556	+110	1等 75%

注：施肥窒素は基肥および穂肥を含む全施用量

3. 課題

- (1) ちほみのりは、m²あたり総粒数が4万粒を超えると、登熟期間に日照不足の影響を受けやすくなりますので、茎数や葉色が目標を超える場合は、穂肥量を調節します。
- (2) つきあかりは、生育過剰によって倒伏すると、品質低下しやすくなるので、過剰な穂肥、早期の落水、刈り遅れを避けた栽培が必要となります。
- (3) 多収性品種は、早期茎数確保と葉色を維持して目標の総粒数を確保するため、田植え後の水管理、中干し、穂肥施用など生育時期に合わせた適正な管理が重要です。

4. 今後の取り組み

実証結果や需要等をふまえ、推奨品種を選定していくこととし、次年度では多収性品種の収益性についても検証していきます。

(担い手・営農支援部 担い手・営農支援課)